

：参りました。心の中で小牧は完全に白い旗を上げ毬江に降参を宣言した。そしてこれからも毬江ちゃんに白旗を上げることが多くなってくるんだろなと思いつつ。

毬江ちゃん、実は君が思っている以上に俺は君のことが好きなんだよと内心、愛の告白をしてみる。

そういうえば、毬江ちゃんにはつきりとしたプロポーズを言っただけでなかつた気がする。

今更だけど毬江ちゃんの両親に紹介された時に、じゃあ結婚はいつにするんだとお義父さんから聞かれたものだから、そこで結婚することが自然と決定したようなもので。

もとから結婚する意志はあつたけど、はつきりと彼女にプロポーズを言っただけでなかつたよ
うな気がする。さつき試着して即決したパヴェリングにお互いの名前の刻印をオーダー
したけど、その指輪がきたら、毬江ちゃんに指輪を渡すときに改めて毬江ちゃんにプロ
ポーズをしようか。そう心の中で決めた。

指輪がくるまであと2週間。どんなプロポーズの言葉を言ったら君が一番喜ぶかな。

「小牧さん、どうしたの？」

「いや、ただ指輪が来るのが楽しみだなあと思って」

「うん、ほんと来るのが楽しみだね」

「指輪、できたときは俺が取りに行くから。」

：俺から直接毬江ちゃんに渡したいし」